

新春講演会

開催概要

恒例の新春講演会を下記の通り、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、オンラインにて開催致しました。(関係者のみ配信会場へ参加)

講演会へは、会員19社から25名の参加がありました。またご来賓として、千葉県計量検定所樋爪様にご出席頂き、連絡事項として令和3年度の立入検査結果と令和4年度の計量証明検査についてお伝え頂きました。

また当協会より事務連絡として、「六価クロム基準値強化にあたって、地盤材料の対応の方向性」について、技術委員会より報告させて頂きました。

新春講演会では元パリーグ審判員、山崎 夏生様より演題「全球入魂！仕事とは何か？」をご講演頂きました。

記

1. 日時 2022年1月28日(金) 15時00分～17時00分
2. 会場 プラザ菜の花：4F「楨1・楨2」
千葉県中央区長洲1-8-1 TEL：043-222-8271
3. スケジュール
 - (1) 受付 14:30～15:00
 - (2) 新春講演会 15:00～17:00
 - ①開会
 - ②会長挨拶
 - ③来賓挨拶・連絡事項
千葉県計量検定所 上席計量員 樋爪 紀子(ひづめのりこ)様
 - ④事務連絡(技術委員会より新着情報)
「六価クロム基準値強化にあたって、地盤材料の対応の方向性」
 - ⑤講演
演題「全球入魂！仕事とは何か？」
審判応援団長一元パリーグ審判員-山崎 夏生(やまざき なつお)様
 - ⑥閉会



2022年1月28日

新春講演会挨拶

千葉県環境計量協会会長
福田 茂晴

新年おめでとうございます。千葉県環境計量協会の会長を務めさせて頂いております福田です。

会員の皆様におかれましては、穏やかな新年を迎えられたことと存じます。本年も協会の事業活動に対しまして、ご理解、ご協力の程、何卒よろしく申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大からほぼ2年。出口の見えない閉塞感を抱えていましたが、昨年は、ワクチン接種、検査、治療薬等の普及による予防、発見から早期治療までの流れが強化され、ようやく光が見え始めました。

年明けからオミクロン株に置き換わったコロナウイルス感染が急激に増加しておりますが、重症化しないとの報告がありますので、過剰に恐れることなく、新しい生活様式を実践していただければと思います。

さて、新年恒例の「新春講演会・賀詞交歓会」ですが、今年度は「新春講演会」のみ、会場とZoomによるオンラインとのハイブリッド形式で開催する予定でしたが、1月21日から2月13日までの間、まん延防止等重点措置を実施すべき区域に千葉県が指定されたことを受けまして、急遽オンラインのみでの開催に変更いたしました。急な変更で申し訳ございませんでした。

今回の新春講演会は、千葉県計量検定所 総務企画課 樋爪紀子様より令和3年度環境計量証明事業者立入検査の結果を中心にお話をさせていただきますので、会員皆様の環境計量証明事業の改善の一助になれば幸いです。

また、元パリーグ審判員 山崎夏生様より「全球入魂！仕事とは何か？」というテーマでお話をさせていただきます。直接環境計量証明事業に関係しないと思われるテーマですが、仕事に対する取り組み方、審判としての正確な判定は、分析者としての正確な分析に通じるところがありますので、改めて仕事とは何かを考えていただきたいと思えます。

昨年の挨拶で、新型コロナウイルス感染拡大により、仕事や働き方に大きな変化をもたらし、当たり前の日常が非日常になり、従来通りのものの考え方や見方が通用しなくなり、多様な価値観が広がっておりますとお話しました。

在宅勤務やオンラインでの打合せ、研修などが当たり前になりました。今年度の千環協の事業活動におきましても、オンラインによる新任者教育セミナー、研修見学会、会場とオンラインとのハイブリッド形式による実務者技術フォーラムを開催しました。with コロナの中、来年度もオンラインを中心に千環協の事業活動を進めていくことが予想されますので、ご理解下さい。

最後になりますが、2022年が会員皆様にとって素晴らしい一年となりますよう、ご祈念申し上げ、新春講演会の挨拶とさせていただきます。

以上

令和4年1月28日

計量検定所からの連絡事項

千葉県計量検定所
総務企画課

1 令和3年度立入検査の結果について

- (1) 実施期間 令和3年9月21日(火)から11月30日(火)
- (2) 事業者数 18 事業者
- (3) 検査結果 文書指導 4 事業者、口頭指導 14 事業者
- (4) 主な指摘事項
 - ・登録申請書記載事項変更届未提出
 - ・JCSS 標準物質不使用
 - ・事業規程又は細則等の見直しが必要
 - ・計量証明書の記載内容が不適切

2 令和4年度計量証明検査の実施について

- (1) 実施期間 令和4年4月14日(木)、15日(金)(2日間)
- (2) 検査対象 振動レベル計
- (3) 受検前に確認しておくこと
 - ・外観及び作動状況
 - ・本体とピックアップの組み合わせは正しいか
 - ・検定有効期間が経過していないか
- (4) 免除について
 - ①令和3年10月から令和4年3月の間に検定証印又は基準適合証印を付された振動レベル計→計量証明検査免除
 - ②令和4年4月から令和4年9月までに検定有効期限が到来する振動レベル計→令和4年4月中の検定合格により、計量証明検査免除

千葉県計量検定所からの連絡事項

令和4年1月28日（金）
プラザ菜の花

1

- 1 令和3年度 立入検査の結果について
- 2 令和4年度 計量証明検査の実施について
- 3 検定と計量証明検査について

2

1 令和3年度 立入検査の結果について

実施期間 令和3年9月21日～11月30日

事業者数 18事業者

検査結果 文書指導 4事業者
口頭指導 14事業者

3

1 令和3年度 立入検査の結果について (主な指摘事項)

登録申請書記載事項変更届未提出

- ・名称（会社名）、代表者
- ・住所（本社住所、事業所所在地）
- ・計量証明用機器等
- ・計量管理者（環境計量士）

※上記に変更があった場合は、届出が必要です！

4

1 令和3年度 立入検査の結果について (主な指摘事項)

JCSS標準物質不使用

- ・濃度計※は、JCSS標準物質を用いて調整してから使用すること。
(計量法第18条)

※濃度計…計量法施行令に定める大気濃度計及びpH計

5

1 令和3年度 立入検査の結果について (主な指摘事項)

事業規程又は細則等の見直し

- ・組織が実際と異なる
- ・登録機器と細則の内容が一致していない
- ・測定回数、数値の取扱い

6

1 令和3年度 立入検査の結果について (主な指摘事項)

計量証明書の記載内容が不適切

- ・計量証明対象外項目が記載されている
- ・計量の方法の書き方が不適切
- ・pHの結果に測定温度が記載されていない
- ・「不検出」の説明がない
- ・外注した項目の記載に不備がある

7

2 令和4年度 計量証明検査の実施について

実施期間 令和4年4月14日～4月15日

検査対象 振動レベル計

8

2 令和4年度 計量証明検査の実施について

受検前に確認しておくこと

- ・ 外観に問題はないか？
- ・ 正常に作動するか？
- ・ 本体とピックアップの組み合わせは？
- ・ 検定有効期間が経過していないか？

9

2 令和4年度 計量証明検査の実施について

免除について

- ・ R3.10～R4.3の検定証印等→免除
- ・ R4.4～R4.9が有効期限
→R4.4に前倒し検定で検査免除

10

3 検定と計量証明検査について

検定とは？

特定の計量器について、構造及び精度が基準に適合していることを確認するために行うもの。

検定を受けるのは、いつ？

製造後、修理後、検定有効期間満了時

11

3 検定と計量証明検査について

計量証明検査とは？

計量証明事業者が使用する特定計量器について、定期的に器差等を確認するもの。

計量証明検査を受けるのは、いつ？

3年ごとに一度・・・？

12

3 検定と計量証明検査について

計量証明検査の予定（千葉県）

令和4年4月	振動レベル計
令和5年4月	pH指示計、騒音計
令和6年4月	大気濃度計、（騒音計の一部）
令和7年4月	振動レベル計
⋮	⋮
⋮	⋮

13

3 検定と計量証明検査について

令和4年4月は、
振動レベル計の計量証明検査を行います。
計量証明に使用する
すべての振動レベル計が対象です。

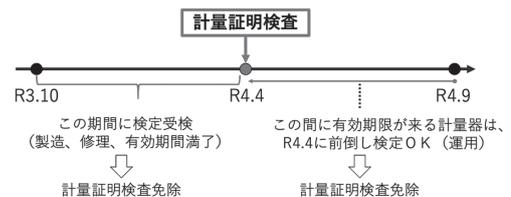
14

3 検定と計量証明検査について

ただし、
令和3年10月から令和4年3月の間に
検定証印等を付された振動レベル計は
計量証明検査が免除になります。

15

3 検定と計量証明検査について



16

千環協ニュース向け 令和4年 新春講演会 話題提供
「六価クロム基準値強化にあたって、地盤材料への対応の方向性」

技術委員長 野田 典広

1. はじめに

周知のとおり、2022年4月1日より、公共水域および地下水中の六価クロムの環境基準値が、これまでの0.05mg/Lから0.02mg/Lに強化される。土壤環境基準値も、これに追随して強化されると予想されるが、その時期は、現時点では、未定である。普通の自然な土壤は、この影響はまずない、と考えられるが、セメント改良土等、再生資材など六価クロムを含む改良材を加えた地盤材料への影響が懸念される。

2. 地盤材料への対応の方向性

上記を受け、「土と地盤材料の環境安全品質評価基準と評価方法の構築に関する研究委員会 委員長：勝見武 京都大学教授」が発足し、影響を受ける材料を主な対象として、適切な微量成分の評価基準および評価方法のあり方を提案する。

かつて、平成15年に、「セメント系固化処理土検討委員会 委員長：嘉門雅史 京都大学教授（当時）」が、報告書をまとめ、工事の前、後に十分配慮するよう求めることと、地下水への影響はほぼないことなどをまとめている。また、当時、全国の公共工事から収集され、とりまとめられた、六価クロム溶出試験の約1000のデータを精査したところ、その中の11～12%が、0.02～0.05mg/Lの範囲にあり、地盤改良工事や再生資材の約1割が、基準値強化によって影響を受けることがわかった。このため、本委員会では、公共工事において、土および土壤を3つのレベルに分けその評価方法と利用方法を提案している。

▶ LEVEL 1：従来評価

- ・土壤環境基準とその試験方法を適用し、「土壤」として取扱い、利用用途等を制限しない。

▶ LEVEL 2：現状有姿や利用形態に応じた評価

- ・有姿の試験方法を適用する一方で、「材料」としての扱いとする。
- ・試験方法は、JIS K0058-1の5のプロペラ攪拌試験やタンクリーチング試験を提案し、土壤環境基準と比較する。

▶ LEVEL 3：基準超過する材料の条件付き利用

- ・基準値超過する材料を利用したい場合、地下水との離隔や雨水の浸透抑制をし地下水への影響がないことが担保されることを条件とし、利用方法を限定する。
- ・また、環境影響の程度や、判定試験の方法、基準値が、適切であるか継続した議論を並行して行う。

これら内容は、2021年12月時点の中間報告であり、今後変更がある可能性もある。

－ 以上 －

新春講演 演題「全球入魂！仕事とは何か？」
審判応援団長一元パリーグ審判員—山崎 夏生（やまざき なつお）様



「プレイボール！」 大音量の開始宣言で始まった。5万人の観客を一瞬にして試合に集中させてきた声である。

1982年にデビューし2010年に引退するまで、1451試合でジャッジしたパ・リーグの名物審判である。身長183cm。幼少時から体が大きく投げることや走ることが得意で、新潟県高田高校野球部から東京六大学を目指すも浪人し、東京で見た大学野球の実力にひるみ、北大を目指すことにした。北大では最初はレギュラーどころか、ベンチにも入れなかったが、野球は選手9人ではなく、全員がひとつの家族となって成り立っていることを知りその後の人生の核となったそうである。自分を凡人と言い、努力で道を切り開いて行ったエピソード

をいくつか紹介する。

《日刊スポーツ社員からプロ野球審判へ》

野球記者を目指して日刊スポーツ社に入社したが、記者でなく営業に回された。それでも野球に対する情熱は抑えられず、日本シリーズで目にした審判を我が道と決める。審判になりたいとパリーグ会長に直談判するものの断られる。会社を退職し、半年間トレーニングに励んだ後に再度願い出てテスト生として採用された。

《プロ野球審判にはなったものの》

昭和57年キャンプではプロの150キロ近い球を見てとても審判は無理だと思ったが、契約をし、審判になった。ところが給料が安い。家族を養うために朝から夕方まで材木屋、学習塾、宅配便、必死に働いた。他の人の倍、8年かけてようやく1軍に上がった。100点を求められる試合で自分の力を出すために、凡人は練習しかない。質より量である。朝一番でグラウンドブルペンに入り一番最後まで残って練習した。ある時、新聞の幅とホームベースの幅とどっちが広いと言う話になり、地面に置いてみたら違いが見えた。432ミリの長さを体得した時は神様がくれたプレゼントだと思った。ピッチャーの球筋が一本の糸のように見えた。ここまで15年かかった。

《心の隙が呼んだ試練》

審判には1000試合出場という目標がある。それが近付いたところに日本シリーズの審判候補になり、心の隙が生まれたのか3試合続けて誤審をしてしまった。2軍に落とされ、引導を渡された。帰郷して高田高校のグラウンドに立った時、高校生の自分を思い出した。プロ野球で首になる事は恥ずかしいことではない。自分はこのものだとかきらめることが恥ずかしいことだ。初心に戻って47才で再び一生懸命に練習に励んだ。一軍に復帰できた。

《最大の試練》

2000年6月に東京ドームで行われた日本ハム対ロッテ戦。三塁塁審として出場した7回にレフトポール際への大きな打球が飛び、塁審の私からは、打球がポールをかすめ観客席に入ったように見えたのでホームランと判定した。猛抗議してきた大島康徳監督に退場を宣告した。帰宅後にビデオを見ると明らかにファールである。大誤審であった。しかも翌日は同じカードの球審である。一睡も出来なかった。事務局長からは休養を勧められたが、ジャッジに対する責任がある、それを断り試合に出場した。スタンドからは「帰れ、山崎」の大コール。針のムシロである。試合が始まるとボールに集中するしかない、・・・そのときのことは何も覚えていない、無心で審判業務を終えた。自宅に帰ると、普段は野球に関心がない二人の息子はテレビの前で、妻は仏壇に向かって応援し続けてくれていた。その三人の姿を見て張り詰めていた緊張の糸が切れ、その場に崩れ落ち大泣きした。全身全霊仕事に打ち込み、認めてくれる人たちがいて、この仕事に就けて本当に良かった。

《振り返って》

長く凡人としてやってこられたのは、三つの要素があった。

まず体力に恵まれたことである。人間、気力、技術よりも体力が根本である。体力がなければ、気力や考える力もわいてこない。

次に大切なのは、人に助けられることである。うまくいかないことを人のせいにならず、一生懸命にやることで誰かが必ず助けてくれる。私には最後は家族の支えがあった。引退した日に妻に今まで一番のファンでいてくれたな、といったら妻は、あなたは私の一番の不安でした、といわれた。

三つ目は情熱である。私の支えは野球が好きで、やればやるほどますます好きになっていったし野球のためなら辛いことも耐えられた。この道で良かった最後まで続けられて幸せだったと思っている。

詩人の寺山修司が、ハイセイコーという馬に詩を送っている。

「振り向くな、後ろには夢がない」

最後は、一番好きな言葉「退場！」で締めくくられた。

山崎氏は、現役時代に17回の退場宣告という日本記録を持っている。リクエスト制度により審判の判定に対してビデオ判定を要求できるようになった現在、氏の記録は破られることはないと言われている。しかも、17回のうち15回は誤審であったと自ら述べている。審判は55才が定年だが、そこまでやれるのは半分もないという中で、審判を全うした。アメリカでは審判も間違えるので、それでも判定に従わせるために尊敬される人間となれといわれ、日本は間違えるな、といわれるそうである。いずれにしても、審判に凡人が真摯に取り組むことの大切さを説いてくれた。